

科学事業

# Scientific Solutions Division



“  
科学研究、病理研究や  
製造・社会インフラの検査に  
革新的な製品・サービスを提供します”

サイエンティフィックソリューションズディビジョンヘッド

斉藤 吉毅



- 光学、イメージング、超音波、蛍光X線等の高い技術力と品質
- 各商品ともトップクラスの市場シェアと顧客接点
- グローバルに展開する販売、マーケティング、サービスネットワーク
- 幅広い商品ラインアップによるトータルソリューションの提供

**S**  
強み

- 各地域・国の景気動向の影響を受けやすい事業特性
- 一部商品での技術的成熟によるコモディティ化
- 一部商品における製品及び販売コスト増と開発サイクルの長期化
- ライフサイエンス分野における法規制対応の負荷増大

**W**  
弱み

- ライフサイエンス研究への投資拡大や病理診断のデジタル化、産業市場におけるIoT化やインダストリー4.0等の潮流に伴う、ターゲット市場の継続的拡大
- 顧客のワークフローに適したソリューションビジネスによる事業成長とマーケットシェアの拡大
- デジタル化に伴うオープンイノベーションによる、ターゲット市場での提供価値の深化と新規需要の増大

**O**  
機会

- 為替の大幅な変動
- 環境変化に伴う政府予算の削減や民間企業における設備投資抑制
- デジタルディスラプションの加速による、ハードウェア商品からの顧客価値のシフト
- 革新的な代替技術の登場による検査手法の変化
- 新興メーカーによる類似または代替機能の低価格製品の台頭

**T**  
脅威

## 市場環境と事業機会 / 科学事業戦略の方向性

### 市場環境と事業機会

- 新型コロナウイルス感染症に端を発した市場環境変化により、ライフサイエンス分野では、政府予算や病院・大学等研究機関の状況に左右され需要回復に時間を要しており、産業分野においても、航空や自動車市場を中心に投資先送り等が予想されるため、主要地域での市況回復には遅れが見込まれます。
- 中長期的には、産業分野におけるIoT関連を背景とする半導体・電子部品関連産業や、インフラ投資による市場拡大が期待できるほか、ライフサイエンス研究への継続的投資拡大・病理診断のデジタル化・再生医療支援関連市場の活性化などにより、ターゲット市場の継続的拡大が見込まれます。

### 科学事業戦略の方向性

- 従来の高品質な製品に加え、ワークフロー全体の効率を改善するソリューションにより、お客様の期待を超える価値提供を目指します。ライフサイエンス分野では、従来の観察機能に加え、ワークフローに最適化したソリューションを提供し、産業分野においても、ワークフロー全体への価値提供とともに、カスタマイズや社内外との協業による新規ソリューションの構築を進めていきます。
- ライフサイエンス分野は医学研究・病理・再生医療に大きく貢献し、産業分野のIoT等先進技術を活用した価値提供は、当社の事業全般への展開が期待されます。

## 市場シェアとポートフォリオ

|      | 生物顕微鏡                               | 工業用顕微鏡                    | 工業用内視鏡          | 非破壊検査機器             | 蛍光X線分析計             |
|------|-------------------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------|---------------------|
| 分野   | ライフサイエンス                            | 産業機器                      |                 |                     |                     |
| シェア  | 40~50%                              | 30~40%                    | 35~45%          | 30~40%              | 25~35%              |
| 競合他社 | Nikon, Zeiss, Leica                 | Nikon, Zeiss, Leica       | GE              | GE                  | Thermo Fisher       |
| 製品   |                                     |                           |                 |                     |                     |
| 使用用途 | 生物・医学研究、<br>病理研究に貢献                 | 産業の効率化、品質向上、暮らしの安全・安心に貢献  |                 |                     |                     |
|      | 病気の解明をはじめとした生命科学の基礎研究、<br>臨床病理研究等   | 半導体、電子部品、<br>自動車部品の検査等    | 航空機エンジンの<br>検査等 | プラント、<br>パイプラインの検査等 | 資源・環境調査、<br>RoHS対応等 |
| 顧客群  | ライフ研究<br>クリニカル(病理研究)<br>再生医療支援・創薬支援 | 製造 / 環境・天然資源 / インフラメンテナンス |                 |                     |                     |

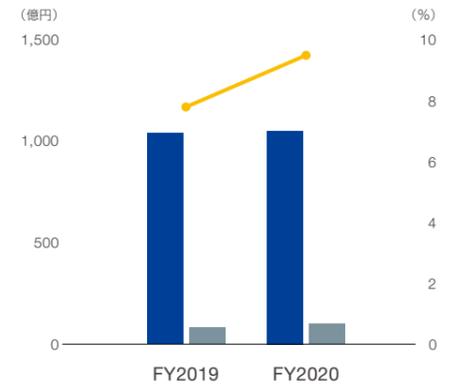
## 進捗

- 売上高は1,052億円(前期比1%増)、営業利益は100億円(同23%増、過去最高益)となりました。病院・科学研究向けの生物顕微鏡や、工業用内視鏡・非破壊検査機器の順調な販売による粗利増と販管費率の改善が貢献しました。
- 産業市場のお客様の生産性向上、効率化に貢献するソリューションの一例として、接続された当社製品をデータ管理、フリート管理、およびその他の機能で強化する「Olympus Scientific Cloud™ (OSC)」を導入し、好評を得ています。
- ライフサイエンス分野の長期的成長に向け、第一ステップとしての細胞培養モニタリングシステム「CM20」の市場導入、創薬・再生医療研究分野のコンソーシアムへの参画等を通して、新たな再生医療向けソリューションの創出と提供に取り組んでいます。

## 今後の取り組み

- 従来の高品質なハードウェアに加え、ワークフロー全体の効率を改善するソリューションにより、お客様の真のニーズを満たし期待を超える価値の創造を目指します。
- 科学事業の目指す姿を実現するため、社内外での幅広い協業も視野に入れ、ライフサイエンス分野では各アプリケーションに最適化したワークフローやプラットフォームのソリューションを、産業分野では個々のお客様のニーズにフィットするシステムやワークフローのソリューションを提供してまいります。
- また、事業の収益性改善に向けた機能強化に取り組むとともに、持続的成長に向けた事業基盤整備といったビジネスマネジメントを強化してまいります。

## 通期実績



|         |       |       |      |
|---------|-------|-------|------|
| ■ 売上高   | 1,042 | 1,052 | (億円) |
| ■ 営業利益  | 81    | 100   | (億円) |
| — 営業利益率 | 7.8%  | 9.5%  |      |